

# コラム

2007/05 (1)

こんにちは。園長の佐藤良文（さとうりょうぶん）です。遅ればせながら、お子様の「たんぽぽぐみ」ご入会、おめでとうございます。お母さんと手をつないで登園してくる表情が、みんなニコニコしていて、見ているこちらまで嬉しくなってしまうます。

さて、たんぽぽぐみは、勿論子どもたちにとっても「初めての社会」であります。お母様方にとっても「初めての」経験が多くあるのだらうと思います。

今回からの「コラム」では、私自身今まで子育ての中で、色々と勘違いしたり、困らされたり、時には妻と衝突しながら（笑）、気づいたこと、嬉しかったこと、経験してきたことを、少しずつですが書かせていただきたいと思います。そしてできれば、「何か役に立つかも」「これは違うわよね」と、お母さん同士の話のネタになってくれれば、と思います。

たんぽぽ組にはもちろん、ベテランのお母さんも初めてのお母さんもいらっしゃいます。同じ「2歳児のお母さん」として、新鮮な気持ちでお越し戴いていると思いますが、子ども達がここで友達を見つけ、輪が広がっていくのと同じように、お母さん同士での輪も広がって行って欲しいのです。「たんぽぽぐみ」という縁を通じて、新たな出会いがある。その面では、子どもも大人も同じであろうと思います。経験の多くは、人との出会いによってもたらされます。同じような立場であれば、尚更心強いだらうと思います。どうかお母さんとして、豊かな出会いのある1年間にさせていただきたいと願っています。

## 子育ての「夢と現実」

第1子が生まれて、私も父親になりました。産湯から上がった我が子を見て、「はい、お父さんですよ」と話しかけていたのを覚えています。名前を付けるのにも、今から考えれば非常に力の入った名前をつけました。「ほほえみを持った子に、大地にしっかり足をつけた子に」と。しかし、特に最初の頃は、寝ているか泣いているか、どちらかしかありませんでした（当たり前ですね）。夜11時ごろになって、お腹もいい、オムツもいい、寒くもない。だけれど何故か泣きやまない。抱っこして暗い廊下を何往復もしていた事を思い出します。本当は、こちらを見てニコニコして欲しかった。でも、それを期待するには早すぎた

のでしょうね。「いつになったら泣きやむのか」。「どうやったらニコニコしてくれるのか」。果てしなく泣き続ける娘を腕に、天を仰いだものです。

でも、現実ではなく考え方を変えたら、楽になりました。「何故だか理由は知らないが、とにかく泣きたいのなら、付き合うよ」という構えです。現実には相変わらず泣き続けていましたが、「〇〇してやろう」を止め、「とにかく付き合うよ」ということにしたら、随分楽になりました。父親が認識されるのは、母親よりずっと後なんだそうですね。ある日はじめて目線を感じ、私を見上げていた（…と思っただけかもしれませんが）時は、とても嬉しかったです。

## 子育てに、マニュアルは…？

さて、「子育てにマニュアルはない」というのは、しばしば言われることです。でもこれは、私たちの世代にとっては、かなり厳しいことではありませんか？寝なくても不安。いつまで寝ていても不安。「何で？何で？」と答えを求めたくなります。それは自然な親心でしょう。だから、一人ひとりの現場・現実はもちろん違うけれど、転ばぬ先の杖として、基本的な発達の仕組みを「知っている」ことはとても大事だと思います。最終的にはもちろん、「理由はよく分からないが、とにかく付き合うよ」になることも少なくありません。むしろ、どんな時でも誤解を残したまま付き合っている、というのが正しいのかも知れません。けれど、今起きている事態が「果てしなく」続くのでもなければ、何か発達の前触れであるとか、そういった「先を見られる」のは、こちらが余裕を持ってあたるのに必要だと思います。

## そして、たんぽぽぐみでは

まさに個性的な、いつ訪れるとも分からない些細な子どもの変化。子どもの一番近くにいて、それを発見できるのは、お母さんの醍醐味ではないでしょうか。この子は、昨日と違う。さっきまでと違う。その変化の瞬間を見てあげられる。子どもの気持ちを側で感じ取れる。それはきっと、幸せな瞬間だと思います。

子ども達は、色々な気持ちを持っています。でも伝える言葉が限られています。どうかお母さん方は、子どもの気持ちを代弁することに心を砕いてあげてください。自分の気持ちにお母さんが名前をつけてあげること、自分の気持ちを言葉で表現できる子は育ちます。母子共に、実り多い一年になりますように。